

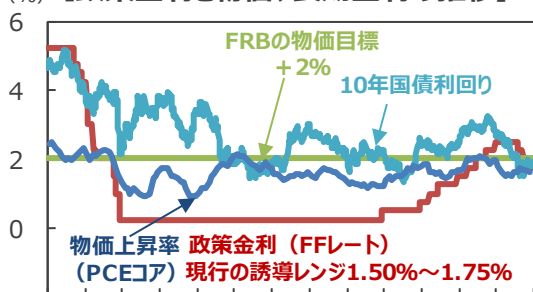


今日のトピック **FRBは政策金利を据え置き（2020年1月）**
新型コロナウイルスの影響を警戒

ポイント1 政策金利は据え置き

- 米連邦準備制度理事会（FRB）は1月29日、米連邦公開市場委員会（FOMC）で、政策金利であるフェデラルファンド（FF）レートの誘導目標レンジを1.50～1.75%に据え置くことを決定しました。政策金利の据え置きは2会合連続で市場の予想通りでした。
- 一方、テクニカルな調整で超過準備預金金利と翌日物レポ金利を0.05%引き上げました。また、短期金融市場の安定のためのオペレーションを少なくとも4月まで行う方針を明らかにしました。

【政策金利と物価、長期金利の推移】



07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 (年)
 (注1) FFRレート、10年国債利回りは2007年1月5日～2020年1月29日。2008年12月以降のFFレートの誘導レンジの上限を表示。
 (注2) 物価上昇率は個人消費支出（PCE）コア物価指数の前年同月比で、2007年1月～2019年11月。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 声明文はほぼ変わらず

- 声明文では、「雇用の拡大は底堅く、家計支出も緩やかに増加している」とし、「米国経済が緩やかに拡大している」との判断が維持されました。また、金融政策については「現在のスタンスが適切」とし、当面現在の政策金利を据え置く姿勢が示されました。
- ただし、会合後の記者会見でパウエル議長は、インフレ率が長期間目標を下回っていることへの懸念や、中国で発生した新型コロナウイルスの感染拡大による世界経済への影響に対する警戒感を示しました。

【FOMC参加者の経済見通し】

項目	開催月	2020年	2021年	2022年	長期
実質GDP成長率	12月	2.0	1.9	1.8	1.9
	(%)	9月	2.0	1.9	1.8
失業率	12月	3.5	3.6	3.7	4.1
	(%)	9月	3.7	3.8	3.9
コア物価上昇率	12月	1.9	2.0	2.0	-
	(%)	9月	1.9	2.0	2.0
FFレート	12月	1.6	1.9	2.1	2.5
	(%)	9月	1.9	2.1	2.4

(注1) 開催月は、FOMCで経済見通しを公表した月。
 (注2) FOMC参加者による予測の中央値。実質GDP成長率とコア物価上昇率は10-12月期の前年同期比。コア物価上昇率は個人消費支出（PCE）コア物価指数。失業率は各年10-12月期の平均値。FFレートは各年末時点における誘導レンジの中央値。
 (出所) FRBの資料を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 **新型コロナウイルスの影響に注目**

- 29日の米国債市場では、指標となる10年物国債利回りが前日比▲0.07%低下し（価格は上昇）、1.58%と昨年10月以来、約3カ月ぶりの低水準で終了しました。
- FRBはFOMCで政策金利の据え置きを決定し、声明文もほとんど変わりませんでした。債券市場は、パウエル議長の会見を受けて、大きく反応しました。インフレ率が目標を持続的に下回っていることへの懸念を示したことや、新型コロナウイルスを警戒する発言が材料視されました。パウエル議長は、現状の世界経済の見通しは「慎重ながらも楽観的」と表現したものの、今後、新型コロナウイルスの実体経済への影響等を注視する必要があると見られます。

ここもチェック! 2020年1月23日 順調な拡大が続く米国不動産市場
 2020年1月14日 米雇用統計は下振れも基調は底堅い

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。